

## ■しまゆむた

### 奄美民俗文化の事例

#### ～徳之島井之川和田キヨ姫の生活史（3）～

本田 碩孝（徳之島郷土研究会会長）

#### 凡例

凡例は、ほとんど標題の「和田キヨ姫の生活史（1）」（奄美ニューズレター NO. 31鹿児島大学奄美委員会2007年6月）に準ずる。①必要と思う意識に若干の解説も含める。②話は次々と続いているが、適当に切り、筆者がこれと思う項目名をつけて項を新たにしている。③類似項目などをまとめるべきだと思うがここでは話順のままにしている。

方言表記は正確にされてはいない。例えば前が軽くつまる音が入る場合ッヤ（家）であるが、ヤという場合、ヤーだけの場合などあるように思う。

#### 注

『奄美方言～カナ文字の書き方～』岡村隆博著（南方新社2007年）があるので参照して頂きたい。但し、天城町浅間（岡村氏出身地）と筆者の生地井之川とはかなり違う。高校時代（昭和35年頃）、天城町の学友が方言で話し合っているのが良く聞き取れなかったことを覚えている。

#### 0、はじめに

小稿は1990年1月1日採録分と1991年1月1日採録分の一部である（残りは次回の予定である）。

#### 項目

1 童と赤毛牛の目、2 砂糖小屋泊まり、3 薩摩芋泥棒、4 麦盗人の恩返し、5 蘇鉄の実、6 盗人神が付く、7 こそ泥棒、8 漁をする場、9 青酸カリ漁、10 空襲前後の製糖、11 空襲時期の暮し

#### 1、童と赤毛牛の目

——牛ぬしどうぬ話は聞ちねーらんせ（牛盗人の仲間に入る話をするが知らなかった）。

——われんや、アーウシヌぬ目いん玉・・・

うりや、あの だつてごろあなていぬ。なんぐわ 聞きはんじゃちゃんがに しゅしが。「あねー、あーむぬ目いぬ おとろあね、ゆーべいぬ アーブシャぬ目いとう似ちゆんでえっ」ち。ぶーんとう、くわにかまるとうやえっ（注1）。いちから、うん牛をば アーブシャこーてい（盗でい）山なてい くっちゃんがら。目い しきやとうたんとう。うんくわが にちゃんとう、「牛がうらん」ち、さばくてい あっちゃんとう。うんから うやぬ目いってごろあ。あじゃが くっち かーでいあむなてい。

「あねー おとろっけ、ゆーべいぬアーブシャぬ目いとう似ちゆん」てごろあちゆてい（笑いながら）話ぬあーし。

目いーしきやてい にしたんとう、「あーぶしゃぬ目に しゅん」ち、うっしゆていごろあ、つわっきゃ爺がら言ゆーたしが。

牛盗いだり くっちかだーり、むーるうむなていや盗いみなていや、昔ぬちゆや。（意識）赤毛牛を盗んで殺して食べた。探しに来た。子供が出てきたので、父が目を光らせ、合図して制止しようとした。「父の目はゆうべの赤毛牛の目のようだ」と言ったのでばれたと言う話。「童は赤毛牛の目」という俚諺があり、その由来話である。「赤毛牛の目」と言われるが、私は童をつけている。井之川だけでも5話以上採録しており、かなり知られた話だったようだ。

注

- 1) 他人に知らされたり、密告されたりすることを「かまり」「かまった」など直訳では「食べる」に関わる言葉で言う。

## 2、砂糖小屋と泊まり

あん、ぬっちが、ありが サタヤマなてい サタ、くんじゃち とうていぬまり また 止うめいじる しじてい ヤかち むーる きゅーむなてい。うがし しっちーから むーる 終戦後、だぬちゆがら サタ盗いまるむなてい。うんから ヤドゥリな とうまるげし なたんとう。

保(さん)。たーきゃインあたんがいー、アーイン ふてかーインあたしが。うんインがちっち。かましゅむなてい わんふねいんきや 残りかましゅむなてい。くんでや、うりが番し しゅーたんとう。うにんま 本当ま あしが、アーインぬ サタヌシドゥぬちゃんからえっ、シュダつき うっくち行じゃんちだ。うがしさんとう、「はーっ、ゆーべい サタヌシドゥぬ ちーあり あね」ち言ちえっ。うがし 各サタヤドゥリ 荒らさるたんべちよ。盗いまるたんべちよ。

サタし しまち、うちゅち。うにん また止めい汁し しじてい きゅーむ あたんせえっ。

とうまるげし なたんとう うねっ。インが うんなてい あね。保シギにゃがインあたわ。アーインぬ ふてかーインあたんちよ。カンニバルなえっ、あむしゃんとうきゃが。うんインぬ うっくち サタヌシドゥぬ しーちゃんとう。シュダんたな うっくち。昔がり、盗いどうべーどうしゅーていあらや。

(意訳) 暗くなるまで製糖をすると、砂糖入り樽を小屋に置き、翌朝の製糖のために「止め汁」という半ばキビ汁を炊いてから

帰った。その後、泥棒に砂糖樽を盗まれたりした。番犬が泥棒を追っかけて行った。

旧暦の正月が終ると製糖工場に泊り込みで製糖に従事する。それは泥棒予防もあった。

牛盗人の話から砂糖泥棒の話に続いている。

## 3、薩摩芋泥棒 (ハンシンヌシドゥ)

ふーん、ハンシン盗いみ。終戦後がり、うがんがぬ ちゅ、盗いまってい。

「だーぬハンシンにゆんが、でいんハンシンにゆんが。だぬハンシンにゆんが あめー」ち言ちゃんちゅてい、話ぬあむ あたんせ。

ゆるゆる しっちかや。

よーはてい くれり ならんけいどう、ほーあ しーなていやっ。盗いどうや、恥ま法ま ぬーんま ねんしじよ。

(意訳) 終戦後など芋泥棒など多くおり、あちこちの畑で盗まれていた。ある泥棒の家では「どこの芋を煮ようか」と話していたそう。ひもじくて我慢できないからこそ盗みもするだろうからね。盗人には恥も法もない。

## 4、麦盗人の恩返し

福富ムツタキシゅたが、おやほがなしぬ財産家なていえっ。カンニバルぬ 七反ばてい みー、麦つくてい あたんとうえっ、カナミから舟い くーじ とうまりぬ。シュダぬとうまりぬ うんとぬ、港なーとうんせえっ(ぬん)、うんとな舟いちきてい。うまぬ 麦刈りくげらち、うがしし。あの、うんが なーちゃま きゅんがら あていねむなていち 番しゅーたんとう、きゃきゃ しっち刈るむなてい、「やねいぬ種いぐわ のーちゅてい くりよ」ち、うがし言ちゃんとう。

刈ていあんしこ むーる むっち行じゃんしじあしえっ。むっち行じ、しゃんとう。

うんから うん あけいまどうしや、うん種いし 麦やーと つくてい、  
「おぼらだれん」ち、とーら たーちちがらむっち ちゃんち。

うがし うんちゅきやや うっくしんきや さーだたんち。  
「種いぐわだけいや、のーち くーり」ち。うがし くうい けーたんち。

刈とうんとえっ、刈とうんと うがし言やーたんとうきや。刈ていあんしこむっち行じゃんしじあしえっ。よーある(注1) むんなていやっ。いちか 向こてい、あんから あがん。

——いきゃし金見ちわかれたんがや。

金見から、

「つうりが うかげいし命生きちゃん」ち。

——あー、お礼しが ちゃんち。

お礼しがちゃんとうやっ。

「うりがむん うがしい盗いでい行じえっ、種いし 植いーたんとう。うりし命生きちゃん」ち。「命ぬ恩人」ち言ち、とーら たーちごろあ いきゃさちごろあ むっちお礼言ーが ちゃんち。うがしか、「だーかが」ち言ちゃんとう、「金見」ち言ちゃんち。

(意訳) 福富家は財産家で神之嶺にある七反の畑いっぱい麦を植えていた。収穫間じかに金見(徳之島の一番北側にある集落)から小舟に乗って麦盗みに来ていた。翌日も来るだろうと番をしていたらまた来た。「来年の種用だけは残しておいてね」と声をかけた。刈りとった分の麦は盗み舟に積んで行ったのでしょうね。翌年には2俵持って「有難う」とお礼にきたって。「お陰様で命が助かった」と。

現実にはありそうもないが、おおらかな共助時代の精神を彷彿させ民話の発生を思わせる話である。

注

1) 空腹を意味する「よーあ」「よーは」

は、両方「あ」「は」に聞こえる。

## 5、蘇鉄の実(シュティチぬナリ)

金見やまた、あんシュティチや、金見かどう かんま きーむんで。アーシュティチや、こーてい きーむんちだ。あれいや、また ウーシマぬ あまかちあし。ちきやーむなてい、あまとうあまとうや。ちきやーむなてい・・・。

ソテツジャングルんきや、専門あんせ。(意訳) 蘇鉄の実は、金見方面から来た。井之川でも金儲けのため「ナリハンギイリ(蘇鉄の実運び)」をした人々がいる。

また蘇鉄の元祖は手々(瀬戸内町諸鈍から来たという伝説が金見の隣集落)にあると言う。現在は金見の蘇鉄ジャングルが名所。

現在、他人の蘇鉄の実を盗る人がいるそう。普通の人々は食糧として使うこともなくなったからだろう。一部では蘇鉄味噌加工もしている。

## 6、盗人神が付く(ヌシドウガミがチキュン)

——盗いどうや、盗いどう神様ぬちっちゅんち・・・。

盗いどうや、盗いどう しーちけたんげか、盗いどう神様ぬちっち離れらんち、わきやうやんきやま言ゆーていだ。

カントヌシチジネインキや、盗いどうしーかやっ、神様ぬちっち ちゃんげか離れらんち。ちゅぬやーか 塵ぐみちゅ盗らむんち。わきや うやんきや言ゆーていだ。なーや、うっしゅんくとう ねんせえっ。

うがしあしがえっ、しき流れ、しき流れ、うがっさ、手いぐせぬ わっさん くわーまがや、やっぱり手いぐせぬ わーさんち言ーや言ゆんせえっ。

——うやぬ しゅーむん にーちゅし。

うやぬ しゅーむん にち。っわっきや

うやんきゃ うがし言ゆーていだ。

「わたな くわぬ あーむしかやつ、ふちく なーかち手いちゅ ちっくまむん」ち。  
「うがし 入ーていか くわが自然的に手い入ーるんげしなるん」ち。

うがしなてい なまあしが、くせ わーさんせ。・・・(小声で不明)。

昔うやがなしや、言ちあんしじやつ。ちゅぬむんきゃ とうたんげか うん精神や、くわに むーる乗り移るむ。くわに むーる ぬり移とうむなてい 決して悪いこときや しーなち。

「盗いどうや、くっちゃんていま のーら。ぬーさんていま のーら、うむさーだていか のーらん」ちえっ。

(意識) 盗人に神様が付く。特にカントウヌシチジネイ(辛の未の日)に盗みをするに盗人神が付く。人の家に行ってもゴミすらも懐に入れてはいけないと言う。

盗みをするのもシキナガレ(ヒキ流れ・系統的)ではないか。「親がするのを子が見て真似るのでしょうね」。「子を孕むと懐に手を入れるな。自然に子が手を入れるようになる」と親は言った。御先祖は良く伝えている。「人のものをとるとその精神は子に乗り移る」と。

「盗人は殺しても直らない。精神が伝わる」。

注

- 1) 奄美民話集2『吉永イクマツ姫昔話集』(拙編1984年、住用村・現奄美市)に「泥棒のへらぬ訳」(172頁)がある。奄美民話集3『池水ツル姫昔話集』拙編1988年(徳之島井之川)に「盗人神付きの子」(173頁)がある。

## 7、こそ泥棒

——トウユタダ(豊山豊忠氏・故人)にや、ヤな、なま鍵けーてい あれるんだ(めん)。鍵けーとうんち。

トユタダにや、なま(鍵けーとうん)。盗いどうぬ をうーわっ。うがしか うんめぐらぬこそ泥じゃやつ。はひんぎやえーっ。

ヤーヤ行じ、むーる 抱きやげいていしっち。ヤち ちみゆんちゅ あたんせ。

Tち言ゆんちゅや、昔や、はる行じえっ、はてばん しゅーむ。ぬっち言ゆーむんあたんがい。うり しゅんちゅ あたしがえっ。盗いどうが をうーむんなてい。しゅんちゅ あたしが。

うんあまや、また 目いはぎいはぎいとうし うむしゅんちゅ あたしが。うり、ゆる なたんげえか。昼や、しぎゆとうさんごしゅてい。ゆるなたんげええかゆるじぎゆとうし。ヤーヤめいぐてい あむしゅんちゅてい。タムン むーる抱きやげいてい ヤーな じーとう。

「山から生ダムンや はんげいらしが、ヤーな しょーがちダムンちでいあむ にーちゃんにええっ。あり ちゅーぬタムンだきやげいてい ちみむんだ」ち言ゆん話ぬ あたんせえっ(笑い)。きよーでぬ ちゅぬ言ちやしが。やっぱり、うっしゅんちゅや、うがし しゅーげしぬ・・・。

ぐみ ちゅしじま たまがるんちゅやとうりきらり。へっちやらち にゅーんちゅや、堂々とう とうりゆり。性質や。むーる うやからぬ 流れあらんかや。

(意識)「豊山豊忠叔父宅は、鍵をかけるよ」と。「はひんぎやえーっ(驚いた時の感嘆詞)」。盗んできたのを積み上げる人もいる。昔、息子は頼まれて畑に泥棒が来ないか番していた。その母は夜仕事(泥棒)し、山に行くのは見えないが正月用薪がいつのまにか軒下に積み上げられていた。



シマでは、外出時など家に鍵をかけることはなかった。現在でも旅に出たりしなければいけない人もいる。

(以下、1991「平成3」年1月1日採録)

## 8、漁をする場 (ツイユトウリドン)

行きゆたしがえーっち。めいじゃしゆたしがえっ、なーんきゃ ぬーんま をうらむ。——渡てい 行きだれんや。キノナをば。

くまから行じから、ナガサキハナからうんなげーり、ワタンジ。しゆぬ満ちゆんせえっ、ワタンジくいてい じーとう うきかち 行きあたんちよ。うがし くんほうぬ はなぬうきぬ方 あたしがえっ。またウグモリぬあたしが。ゆる むーるが青酸カリむっち行じ入ーるげし なたんとうきややっ。うーんなり、ツイユをうらんごなてい。

(意識) 珊瑚礁には、あちこちに礁湖(クモリ、海水溜り)がある。魚介類が採れた。青酸カリを使うようになり魚はほとんど獲れなくなった。

注

海岸や礁湖の地名など地図上(作成も必要)に記入していく必要は感じる。地名研究者も島では育っていないのが残念である。

## 9、青酸カリ漁

### (1) 青酸カリの流行時

青酸カリち言ゆーむん 流行ちけいたんとうきややっ。

——青酸カリぬ流行や、昭和ぬ何年べだれんがや。

昭和ぬ24、25年べ あらんせ。

——復帰しからだれんじゃわ。

復帰さん前 あらんせ。

(意識)「青酸カリは何時頃流行ったか」「戦後の復帰前だろう」。密貿易が行われたと聞く。そんな時代の魚とりの思い出話である。当時はドラムカンで買えたのだろうか。

密貿易品のひとつだったのだろう。

### (2) 漁慰み1 (ギューナクサミ1)

うがし、クシぬウィーノ。うま くもりぬ池いに しゅんと あんせ。うんな、また、えっ かつしゆるマンガラぬ あがとうるとうや。舟いし なーか行きゆんちゆや、おーじらんしこ とうるたしが。うんか ていちマンガラぬ 浦かちしっちか、トゥギヤむっちゆんちゆや。わきゃにせし しきゆんちしか きっさ ひんぎりあんせね。ひんぎいていさんとう。

(意識) 下久志のウィーノ。そこの礁湖にマンガラの大きなのがあがった。広い礁湖だから舟で行った人は青酸カリで酔った魚をモリで突いたりして獲った。ザルですくおうとするが逃げるのが多かった。

### (3) 魚の取り合い

うんから、1斤、2斤べぬマンガラぬふてー石ぬあーむ。チャーカーたスインぬあんとあしが。うんとぬ ネイクイ ウィーノぬうきぬ かん方ぬ方あしがよ。キノぬ方あしがよっ。くもりなーとうんとーあしが、石かちしだんとう。松本おじさん、「うりや、なんがどう うっくち ちゃしが、だーかち行じゃんが。だーかち行じゃんが」ち(笑いながら)。トゥギヤやむっち しーちゃんとう。うりやスインかちしだしが、っわっきゃスインかち しだんちあていあむなていやっ。アキさんえっ、ありとう、あり、ヨシヒロあたらち思ゆしが。ありが ヨシヒロが ぎにやーあり 7ちか、1年生べーあたんがら あていねしが。おじさんが行じ。いきやなーげ なーていぬまりえっ、うまからマンガラ、くんでや、とうてい。テイルないーてい。しか、またむーる あちめいりあんせね。

「へえく かいり」ち、ありや、ふえーあし。かん方ぬ うきなげーり渡てい、ありやかいたしがえっ。ちょーかっきべーしゆるマンガラあたんで。

(意訳) 瀬の上から獲っていた人に追われた大きな魚(マンガラ・和名は不詳)が来て石の下に潜った。松本さんは「自分が見つけ追っかけて来たがどこに行ったか」。知っていたが黙っていた。行った後、獲って小さい子にあげ、帰らせた。大きな魚は一箇所に集めていたからだ。

#### (4) 場所で違う

うがしか、舟いなーから あっきゅんちゅや、港な一行じま、よろよろ しーあっきゅていか トウギヤし ちきあんせね。あんだち きゅーんちか、つわっきやにがり、クサビぐわとかアイヌクワぐわとか、うっしゅんマーツイユぐわぬ かつしゅむぐわどう とうらりゅんぬ。あんだちがかり くーんせね。つわっきやな みんちりさどう とうたしが。

うんから、向こうぬ あがん流りるあまな をうたんちゅんきやや、アイヌクワんきやしレーんきやぬ流れいていしっち、やーと とうたんち言ちゆたしが。つわっきやや、くん方ぬ うきぬ方なくまどう をうんかだあていねんち さーしがえっ。をうたしがえっ。うにんきやま とうりどうく あんせね。Mめいが むんなていやっ。

(意訳) 下久志の大きな礁湖(一部は外海とつながっている)に青酸カリを流した。魚の群れが入っていたからだ。大きいので場所によって漁に恵まれるのが違った。軀などは良いと思った場所で獲れなかったが、他の人で恵まれた人もいたようだ。

#### (5) 分配(タマシウチ)

うにん とうてい 浜なてい。ウーツイユや とうーてい。舟い うーむん さんちゅきや わーち 宴会、かみ。かみ あたんとう、つわっきやや、あちめいりだましツイユや とらむなてい。ウーツイユや とうらむなてい。つわつむんぐわんきやがり はんくらしだまし ねーむな

てい はんくらさだたしがえっ。うがしちよーかつしゅんマンガラぬ うりうりうり・・・。

(意訳) 大き目の魚を獲った人達は浜でこぼして分け合った。また、炊いて宴会もしていた。多分、この礁湖に青酸カリを流そうとした人々を見ての話だろう。一般の人々が獲る分は見逃したろう。今であれば法律違反問題だが、アメリカ軍占領下の出来事で誰が中心かも分からない。平等に分け合うことを「タマシウチ」という。

#### (6) 舟も入る礁湖

あまや、ちよーキノナ、あーむん あんせね。あうあう しゅんせえっ。舟いしどう あっきゅんせね。うがしなてい うがまんマンガラぬあがてい。うま行じ いーたんとう。マンガラぬ あんだち ちや、ひんぎり ひんぎり さーしが。つわっきやにがり セし しくゅんちゃんていしきやらん、きっさ ひんぎりなてい。トウギヤむっちゅん ちゅや、トウギヤし とうり、とうり しーえっ。

——ふえーかキノナーだれんや。

るん、あがはんべしゅむなてい ドラムカン3本ベー入ーてい あらんかや。Mめいが、うり 入ーていぬのり、フーガネイクぬしゃーぬミクイノや、うま行じ いーたんはず。うんから(次の方の最後に続く)・・・。

(意訳) 下久志のところの礁湖といっても沖と繋がっている。舟が出入りし、珊瑚礁で囲まれていない。そこに青酸カリを流したのだ。

#### (7) 漁慰み2(ギューナクサミ2)

Mめいたが ドラム缶むっちちえっ、わきゃフーガネイクぬさーぬ ミクイノな入ーてい。とーうん行じ 入ーるとうやえっ。うにん いきやしあがやっちかえっ、しゅぬ からーからーしちか やーと とうらましぬ むん。はんばどうりし

とうてい。

うんから、浜かちツイユーとうたむん  
むーる あちめいていえっ。ウーツイユヤ  
ウーツイユ、ツクワツイユヤクワツイユ  
じーとう あちめいてい。ちゆり いきや  
さじち きんめ けーていえっ。むーる  
うむあたしがよ。

っわっきゃEちゃんがよ、Aはんげいと  
り。Aはんぎいてい ツイユじやら あむ  
さんとうえっ。うんか名田ぬあーまがえっ、  
オボロンクな 入ーてい、  
「へえく いやっむんや はんくさんご  
へえく はんげいてい行けい」ち言ち、っ  
わっきゃ ありに はんぎいらち、あり  
うんなげーり かいらちゃんちよ (笑い)。  
「いやっ へえく オボロンクぬむんや、  
はんくらしご いらんきい」。とうたむん  
や、むーる浜かち はんくち うーむんや  
うーむん 分配しゅーむん。何十人ち言ゅ  
んちゆに 配分あんせね。とうたむんや。  
青酸カリや、ありが ただなていやっ。M  
めいが闇商売しゅーりなてい。ドラムカン  
ていち むっち ち。

(意識) 2度目の漁慰みは諸田の下の礁湖  
であった。獲った後は浜で分配し、料理し  
ても食べた。その時も分配のため獲った魚  
は籠からこぼすが、子どもに「小さい籠に  
入った魚はこぼさないでよいから帰れ」と。

#### (8) 後の話

うんから わちゃめいたんちゆーゆり  
ま、うんか まりから いきやしがやっち  
か、シュダちゆんきゃネイバリとかおーじ  
らんしこ。トゥクヌツクワとか とうたん  
ち言ゅーたんちよ。しゅぬ満ちやがりどう  
とうりなていえっ。いじてい きーあんせ  
ね。

ギューナクサミヤ、Mめいや、うっしゅ  
ていま さんちゆあしが。闇商売しも一  
けいてい。

(意識) 潮が満ち始めると魚が酔っ払いな

がら出てきた。他の人々が多く獲ったとい  
う。M兄など漁慰みを村中の人にさせたが  
ね。

#### (9) 楽しませた人々

も一きいたんむんぬ、後う しまいに  
は、赤字なてい。調子がいきやんがにしな  
たんとう、あむし 借金だけえっ。ウッコ  
んきや、Hたウッコんきやサタぬかわり  
とりむんあらや。トーバルんきや。うんが  
まりがり しーならんごなていえっ。

うがしか、わきやサタンきやえっ、シュダ  
ぬ元山さんえっ、

「うまぬヤドゥリかち 入ーれ」ち言ち  
えっ。うがん っわっきゃ あーじゃた  
タルシキヤシな むっち行じえっ。ぬがら、  
うま行じ 入ーたん くとうんきやまあん  
だ。通ちゃんくとうんきやま あんだ。う  
にん金いぐわ いきやさ とうたんがら。

うりが、うんなり中止なてい 行きなら  
んごなたん訊い。行きならんごなたんとう  
きや、ぶーんとう かぶりあんせね。かぶ  
たんとうきや、しか、金いま 入ーりなら  
んせね。うやんきやぬ むんま こーたん  
てい金いが 入ーりならむなてい ウッコ  
んきや むーる 取うらっていよ。

(意識) 闇商売で儲け、シマの人々を楽  
しませた商売人も時の流れの中で渡航が自  
由にならなかつたり、資金繰りが悪かつた  
りして借金が増え、持っていた土地なども  
人手に渡っていった。

沖縄との自由な行き来ができなくなった  
からね。自分達が小作していた畑で出来た  
砂糖樽を別の人の家に届けたこともある。

## 10、空襲前後の製糖

### (1) キビ運び (ヲウギハンギイリ)

ふーん うにんきやぬサタしーちか。カ  
ンニバルからナオキチ (町田直吉翁・故  
人) ぼうが うがん じーとう ヲウギ  
はんぎい。ヲウギはんぎいてい ナオキチ

ぼうが むんなてい フクガチ（富沢福勝翁、叔父・故人）にゃがサタ炊きあたんちよ。サタ炊きあたんとうきや、っわっどんちゅらし。ちいや、たーり、みちやりまたんでい うがん かよち。うんが なーちゃや、っわっ、どんちゅりし はんげいり あたしが。はんげいてい さんとうんきや。うんから、フクガチにゃが、

「っいっやま どうんちゅら うがっさ難儀し。鉄カブト みーや（砂糖）とური」ち。っわんに うがし言ちあたんちよ。言ちあたんとうきや。しか、爺にうがし言ちちゃんとう、

「えっ、っなま。ねーだていかあしが、まり、ヲウギあんせね。まりか、また、うにん いやんに くーるさ」ち言ち。ふーう っわっきゃ爺ーた かたかーちゅ あていだ。（意識）甘蔗運びはきつい仕事だった。難儀な様子を見て、叔父が「それだけ難儀している。鉄兜一杯は砂糖をもらえ」と言う。父に話したら「甘蔗がまだあるから後の製糖でもらえば良い」と言う。父は固い人だった。

## （2）空襲の始まりと製糖

後う しまいにや、まりぬヲウギやサタしーならんごえっ。うーんなり ヲウギや、かざじ イーシュマンにゃが さんほうヨシアキ（弟・藤田喜秋）たが、こーたんせ。うんなクーマンドー建ていてい あたんとう。うんから、ヲウギはんぎいてい 天にし ちでい。サタさーるんち さんとう。しゃんとう、空襲ぬ しっち、サタしーならんご なていあね。かいてい ゆーう激しくなていえっ。激しくなたんとう。うん しまいにや、うーむん にちか、野砲ち言ち 爆弾はんとうしゅんち言ちゅん噂ぬあていえっ。なー、おとろくなてい。ヲウギや、

「サタしーどっころあらんち言ち、クーマンとーしっ」ち。シキボウ、長ーしゅんせ

ね。にーちか うがん爆弾はんとうしゅんち。うがし噂ぬ あたんとう。うがんはんぎいたんヲウギうんなり かりらちだ。うがし、うんから ナオキチぼうが むんかち はんぎいてい行じぬまり、残りぬヲウギや、なーしか、さーち思ったんていぬ ゆる くわーしきらんご さんとう。

後うや、昔、ური 栄田あらんご、なぬ福留Mめいが とうじぬうやんきや あーていあらんかやーち思ゆしが。うりたが、「ゆるゆる。とურიうえしゅん」ち言ちえっ、ゆるゆる、ヤーにんじゅし かさじむっち行じ。シュダワセイや、ゆるゆるサタさんちよ。うにんサタぐわ いきやさむっちちゃんから っわっや、わかりやさしがやっ。

（意識）後になると、空襲が始まり、昼の製糖は出来なくなった。甘蔗を積んであったが、甘蔗絞場の牛の引く棒（シキボウ）が砲身に見え、野砲として空襲の対象になる危険性があり爆弾を落とされると言われた。怖くて「製糖どころでない」としなかった。後の畑に残った甘蔗は、諸田の人が「製糖して分けよう」と言って、製糖させた。いくら持ってきたか知らない。諸田、徳和瀬の人々は夜に製糖したそうだ。

## （3）茶受け持参

うがし うにん ぬがちか、うんから サトウ大根つくるむ あたんちよ。サトウ大根とうトー豆イわーち、茶んしゅきちいち、うまぬ ヲウギばていかち、サタしゅんとかち むっち行きあたんちよ。っわっ、ヤーな をうーむんなていやっ。あただんし よーり考げたんとうえっ、なぬTちゃんが、あまが、うやんきや あらんかやーち思ゆしがえっ。爺ちゃんた婆ちゃんたをうてい、っあまじゃら をうたんちよ。あじゃや、炊きあたんちよ。炊きなてい。うんか っわんが よーり がんげえりじゃわ。あねー、あの一佐田ち言ちゅんちゅ



あたんちよ、うりた。ありた あらんか  
いーヲウギ はんげいてい サタ とうり  
うえ さーしが。ありたが うや方きや  
あらんかやち また うっかんな かんげ  
たしがえっ。

(意識) 製糖して分けるのをした人々は誰  
だったかなあと思う。祖父母など家族で製  
糖していた。

注

「つくりうふえ」(作って分け合う。正確  
に表記されていない)と言うが、製糖して  
砂糖を分け合う。割合は不明。

#### (4) 爺(父)の欲

ふーっ、爺ぬ欲ちか。うにんぬ金い4000  
円がらあたんちよ。Mめいに。4000円が  
らちゅっけりや とうたんちよ。400斤が  
ら200斤がら売てい しゃんとうやっ。  
かび束 かつさんべ むっちちゃん訳い  
あらや。っわっーましか、100円札 かし  
計算しーあんせね。うり ゆんがまらん。  
後う、

「いきやさどー あん」ち言ち。

「くり 4000円あるびきあしが、あんど  
ぬがいー」ち。3800円があら いきやさ  
がら計算しーあたんとう。うんか またしゅ  
んち さんとう。わんに なりあてい  
くーていか あーしが、ゆんがまらん。  
「うがしか、200円 なーか とうりまい  
あし」ち言ちゆてい。郵便局ぬうんとな  
をうりなていやっ。春山正一めいが、をう  
たんとう。計算しめいたんとう、丁度4000  
円あたんち うね。

「もうけいたが」ち、爺がわんに言ちゃん  
ちよ。ちょう きぬに しゅーしが。うっ  
しゅてい っわっきやに難儀しめいたん  
てい、サタぐわ一斤 くーらむ あたしが。  
——空襲どうきぬ後うだれんじゃやっ。

空襲どうきぬ 後う。B券なーていげん  
か。闇時代ぬくとうあね。うがし、残りぬ  
サタ、かさじ、サタしーうふえ。

——空襲ぬきゅーんち言ち さーだたん  
ヲウギだれんや。

うにんよ、うがさんげーぬ はてなたん  
とうきや。なりや、くんでや、ナオキチぼー  
がむんかち むっち行じ。サタさんごしー。  
Mめいに 売たんとう。うんが ちぎしゅ  
んち さんとう。空襲ぬ激しくなーてい、  
グラマンぬどーんど きーちけたんとう  
あね。シュダワセイちゅんきや、おとろあ  
うんなーなてい サタしゅーむんあたし  
が。

——Mめいや、戦争前からサタ商売しゅー  
たん訳いだれんや。

終戦後よ。

——終戦後がりグラマンぬちー、爆弾はん  
とうしゅむだれんかや。

(意識) 父は娘(キヨ嬢)を難儀させたのに、  
現金をつかむと娘には砂糖代1斤分もくれ  
なかった。終戦後の闇商売の時代だ。戦前  
の4000円は大金である。戦後のB円時代で  
あろう。昭和20年の終戦前から後でキヨ嬢  
の主人栄良氏が戦争から帰る前であろう。

## 11、空襲時期の暮し

### (1) アメリカ機の編隊

戦争(徳之島での空襲時期)はじまらん  
前、昭和18、19年あていあし。

——富山丸ぬ沈没しーぬ まりだれんど。

19年なていやっ。うんから まり ぼち  
ぼち ていんとがなしみー。うりが沈没。  
富山丸ぬ沈没しーぬまり。うんからいき  
しがやちか、400機ぬ飛行機ぬ。ていんと  
がなしぬ。ガラぐわにし かしにやってい  
えっ。ちょうクーマンドジキあんべぐわ。  
てーんとがなしな ちょー両方な輪つく  
てい。ターぬ輪つくるしま ていーちむん。  
てんとがなしな をうーむん じんしょ  
とう、うーむとう をうーめいちゃんち  
よ。ちょう たーくみ うえーてい。くま  
な クーマンドジキにしかえっ、また 片

方なクーマンドジキにし まーん丸しゅー  
む あたんちよ。しか、ていーちぬ まん  
丸しゅむんや、ちりちりなてい ウーシ  
マぬ方かち行じゃんちよ、うね。うんか  
ていーちぬむんや、うりが シャーかち  
あむしちけたんとう、うりてい ぬっちが  
視察しゅんがにし なたいあね。ほーう、  
うんから、初めいや、いーかげんぬ たー  
かとんから しゅーたしが。うんから、う  
がししま くまや、ぬーぬ設備が ねーむ  
なたい。設備や ぬーんまねんちにち。う  
んから低空しーちけていやつ。

うがし じーとう うんから、じーとう  
空襲ぬ、四機じち しーきゅたんちよ。10  
時べーあり しーちか、ひるぬ2時べあり  
しーちかやつ。

(意識) アメリカ空軍が編隊を組んでくる  
様子である。最初は攻撃を恐れてか、かなり  
高空から偵察のようにしていたが、攻撃  
がないと知ると低空してきた。4機編隊で  
10時頃と14時頃に来襲した。

#### (2) 警防団員の暴力

うんから、富山丸ぬさっていぬ まりあ  
たしが。Fめいが。区長さんが警防団長  
あんせえつ。うがしか ありたや ナガ  
クウシュジなたい警戒しゅーたんせえつ。  
しゅーたんとうきやら。うんから シキシ  
ル(泉碩広氏)にやが、むらぬ区長さんあ  
たんちよ。富山丸ぬ さったんとうきやが  
ら、うべいらんごなたい シキシルにや  
ぶーとう 竹槍し まがり しねい ちっ  
きぐだちえつ、ゐしてい あたんせね。F  
めいが、へえく むんが言いならむなたい。  
(意識) 警戒場所で警戒していた人が、警  
防団長していた区長さんを、富山丸が攻撃  
されたからか、何かで混乱してだろ竹槍  
で膝を打ちすえる暴力をしてあった。

#### (3) 富山丸撃沈と攻撃の噂

うんから、まりから 富山丸ぬさったん  
とうきやがら、タムンあちめいりぬやつ、

ぬっせぬやつち あむしが行けち言ち、あ  
まなてい むーる アキチュぬ舟なむっち  
や しゅっきやげいてい ちゃんち言ゆん  
せえつ。うがしさんとう、

「空襲ぬきーなたい ターハチガナシかち  
ぬぶり」ち言やっていあね。時間が遅く  
なたい行きならんごあね。つわっーや、む  
んはんげいていか。あんや、栄(二女)  
ちゃんはんげいてい。ねーや(長女房子さ  
ん)・・・。

「うりた組や、むーるターハチガナシ  
かち行じえつ。まに おーやむなたい」。  
「とーう、うがしか あむなたい」ち。マ  
シタメイ(前田政為氏、現房子の夫)たが  
山ぬあんせえつ。コーちなモトウ爺、う  
んからメイーあかた。何町歩ちあんちゅ  
あたんちよ。ありた うんな避難場所ちツ  
ヤつくてい あたんちよ。

「と、とつ、あがん行きやらむなたい う  
りたま なつ、わーきやとう うむし」。  
メイーあかとう、名田ぬあーまがえつ、  
「うりた、なつ、あがん行きならんだ。な  
きやとんかち しーく」ち。つわっきや  
うまま行じ 1週間べ をうたんとう  
きや。

(意識) 富山丸が撃沈され、薪の供出など  
があった。それから、アメリカの攻撃の噂  
があり、「ターバチガナシ(ガナシは尊称)  
に登れ」と言われた。しかし、行けなかつ  
た。乳飲み子をかかえたり、食糧を持っ  
たりで間に合わなかった。途中の避難小屋  
にいた前田姓の人が自分たちの所へ来るよ  
うに誘い1週間くらいそこで世話になっ  
ていた。

#### (4) 避難小屋

うんか つわっ爺がえつ、  
「うがし ちゅぬやな うっさんげ をう  
りならん」ち。マチサジぬトシオ(井上利  
應氏・故人)にやが うんとぐわえつ。う  
やっくわし 木い切ちちや、インヌブリ、

みーち つくてい。ていーちや、牛んヤドゥリ、ていーちや、ねいんびゅんとー。ていーちや、いきやしがやっちか、むんしーどん。造たんしじあらや。うがしか、うんから、っわっや、ハリ抜ちから、爺やくんじ。インヌブリなたんとうきや。じーとう、茸ちやいきいきしー。っわきやハリんきや ぬかちか大将だ。うがし インヌブリつくてい。

(意訳) 爺(父)が、「人の家に長くおれない」とインヌブリ(直訳は犬登り)と呼ぶ小屋を親子で3つも作った。片屋根の小屋という。一つは牛小屋、二つ目は寝るところ、三つ目は炊事場だった。

#### (5) 避難小屋で

空襲ぬきーなたんとう。うんから たんこなフジエイめいが、をうんせね、はてぬあんせ、ありた田ぬ。うんから っわっきやがハンシン煮ー、つまちバーバーめーちやんと、

「ふーう、ゆる空襲ぬきーあしが、つまちめーち」ち。向こうから あびいらりっちよ。うんからヤドゥくーてい。ゆるや、あーがり 洩れり あんせね。うがしにさんとう、うんか、やっとう、木いんシバし。やっとう、ぎりーぎり トージキ(注) むっち しっち じょぐち さーじ、うがしハンシン煮ちやり しゅーていだ。

うがしまよ、インヌブリ かししか、しにい ぬばちか。さーや じんしょなてい。っわっきやテンマクしちどう 寝いんびゅたしが。

(意訳) 芋を煮るために火を燃やしたら向かいに避難していた人から火が見えたら空襲されると怒鳴られた。柴やトージキ(萱の一種)などで火がもれないようにした。

#### 注

「トージキ」(直訳唐ススキ?) ジキはススキ。ススキよりも茎が太く大きく成長する。萱屋根ふきの材料。本土では見かけな

い。

#### (6) 小屋とハブ(インヌブリとマジムン)

Mちゃん、うんなていマジムンにくわっていえっ。しに ぬびいるんち くわってい。アジャマ(浅間在駐屯)ぬ軍医しよーていちゅてい、Fた養生しだ。

っわっきやよ、うがし、うり聞ちやんと、しに ぬばち。しか、まぐでいべーま寝いんび ならんせね。やっぱり うりま神様。うんなてい ちょう くわっかーるよっ、タンコマキぐわ、あんが にーち。あーとうき寝いんでい うーてい にちよ。うーむんぐわ ていち くっち あたしがえっ。あら、うんなていや ぬーんまにゃんご、ニシマバルかち うちていよ。

(意訳) 別の小屋でハブに咬まれ、浅間(現天城町)から軍医を連れてきて治療させた。小屋が小さく、足を伸ばして寝ると地面に出る。だからといって、足を曲げてばかり寝れない。ハブに咬まれるのも運命(イヤージ)と関係があるだろう。

#### (7) 避難場所の移動

ニシマバルかち、フーナベイはんげい、はんげい。テイルはんげい はんげい。また、道具しよどくはんげいてい。くまなていや、あま行じ通てい むんちくり(しー)ならんせね、カンニバル。さーらむなてい、

「とっ、くんなていや さーらむなてい」ち、ニシマバル行じ、また インヌブリたーちつくていあね。インヌブリつくりべーどうしーだ、っわっきや、あじゃとうっわっうやっくわ。

(意訳) 山にいたのでは農作業が出来ない。集落に1回下りて、また上って行かなければならないからだ。それで畑のあるニシマバルに疎開小屋を2つ親子で作りました。

井之川での疎開の具体的様子が分かる。もし米軍が上陸すればと想像するとゾッとする。あまりにも避難場所は地形も複雑で

ない。

(8) ハブを殺す

うまなてい タクマキ (注) ぐわ。あんが、あーとうき ふえーあー、  
「寝いんで うーたんとう、うたん」ち言ちえっ、くっち あたしが。うりうり あまーんくま にちゃんていぬ、かっしゅむんきや なかなか神様なてい うむ さむだ。

(意訳) ニシマバルに避難小屋を変えた時に母 (なべ志や) が子ハブを朝方見つけて殺した。

注

タクマキは小さなハブの呼称。煙草くらいの大さを言うかも知れない。毒は大小にかかわらず同じだと伝わる。

(9) ハブに咬まれた人

ありま くわーるあぎいぬちゅどうくーゆんぬ。うんから ナオモリにやがあーまがえっ。道具しょどく むーる っわっきや イフぬウクトウシ爺がヤドゥリな入ーていあたんせね。畳じゃら あらゆる どーぐ むーる うがん むっち行じあたんとう。うんか、畳ぬ あいちがら、手いच्छくでいやっ。っわっきや栄ちゃんが (現・永見栄子) が いぬなご あたしが。手いच्छくだんとうきや、っわっ、ヲウギばてなーな おしめふし しゅーたんちよ。こー行じあろてい トウミアキあーま (藤富秋氏・故人の母) たが、わきやニシマバルしゃーや。トウミアキあじゃ (富秋氏の父)、にゃー (キヨ嬢の叔父) たが はてあたんちよ。うんヲウギばてぬ なー行じ おしめ ふし。なー行じしゅーたんとう、

「はーいえっ」ち言ち、ちょう かっしゅんと くわってえっ。Sめいが あまよ。うがし手いच्छみんじい ゆーえし きらだたし。ニシマバルなてい もーりさんちよ。うんちゅや、いきやしさんがちか。うっ

さッイヤージぬちゅされ。むんぬなーかちなっ、ヤドゥリぬなーかち いるいる茶櫃とうか、畳じゃら いるいる うちあーむ。あいかち、かし 手いच्छくだんとうやっ。あいな うたんしじあしえっ。っわっ うんちゅぬ手い っわっきやはてから うがし行きあたんちよ。ぶちなげーりぐわやっ。にゃが、ぶちから うんなげーりぐわ行きあたしが。っわっ栄ちゃんが、うんから ねー (現・前田房子) が ゆーち ありなてや。いちちがら ありなたんとう。はて せとうなりし、マツエさんが るんがぬくわ なまいや、ぬっちがいー、うりたが むーる かなーし ていच्छしゅーたしが。っわっきやーわれんありあしえっ。二七〜二八べーなりなたんとうきややっ。行きまさーり にーがま行ききらだたしが。あんた爺たや とうんべ しが行じゃしが。にがま行きゃんご さしが。うりうり うがしゅていし。

(意訳) 疎開中に小屋に道具なども疎開させていた人が、何かの用事で小屋の道具の中に手を差し入れたら、ハブに手を咬まれた。今のようにハブ毒血清の注射なども出来なかったのでしょうか。一晩もたず他界したという。これも表に現われない戦争犠牲のひとつでしょう。

(10) 戦争中の療法

ふーうん うんから ねーが いきやし がやっちか。からだな のーな ぶちゃぶ ちゃし、

「ちーそぬ わさーあていかどう うがししゅーむん あしが。ぬんか中毒んきやしーあらめ」。

「ほーう、くりや ぬーがら わからん」ち。あげれぬ にゃーに にしたんとうきや。

「ぬんかぬ きじから ばい菌ぬ ふえっ ちゃんがら あていねん」ち言ちゃんとうきやら。うんから、うんが前 ホーシマン



バリぬ あじゃ むんごしゃ、むぬじき  
 あたんせえっ。うんちゅや ヤーな をう  
 らり、ホーシマンバリちゅや、むーる イ  
 ビガナシななていえっ。うんなてい 竹  
 デクしゅーたんとう。うがん そーてい  
 行じ にしたんとう。うんちゅや、わんに  
 むんま っいやーむんなていえっ。たより  
 ま ならり、うーむんがら あていねん  
 ち。ありそーてい。くんでや、宝(姓)ぬ、  
 宝めい(宝兄)たが あーまたが、あん  
 ぐわがえっ、部落かちシキぬツイユむっち  
 きゅーむなていやっ、

「シキヌツイユ みーちよ、かませ」ち。  
 うや方や、宝ぬおや方とう っわっきゃお  
 父さん(夫)たうや方とう ハロジ(注)  
 あんせね。うんか あげれぬにゃーに  
 にしたんとう、

「ほーう、くりやばい菌がら あていねん  
 ち。あむし あむせ」ち。火傷しゆる ぬっ  
 ちがやっ。きじんきゃな ちきるたんせ。  
 コウセン(鉱泉)あらんごとうに。うにん  
 きゃや、コーセンま ねむなてい。きじな  
 ちきるたる ぬっちがいー。うり「きじな  
 ちきいていから のーるん」ち言ち、うり  
 ちきたんしじあらや。うりが ぶら ふち  
 あばりりちけいたんとう。うんから、

「うがし、うがし さんとう あばれりち  
 けたん」ち言ちゃんとう。しょーてい行  
 じゃんとう、ユーシにゃや いきゃしがち  
 言ちか、

「竹デクしゅんとかち うっしゅんきじぬ  
 あんちゅんきゃや しょーてい行きやむん  
 ち。ばい菌が ゆー、うべいるむ」ち。う  
 がし言ち。うんか まりから しょーてい  
 行じゃんとう。

「ふーう、くりやえっ、うっしゅん 竹デ  
 クしゅんとかち うっしゅん きじぬ  
 あんちゅや しょーてい行きやむんち。ば  
 い菌が ゆー、うべいるむん」ち。まり  
 から しょーてい行じ にしたんとう、

「ふーっ、きじ口ぬあんちゅんきゃ、そー  
 てい くむだ」ち、うがし言ち。始めいや、  
 いんだちかち、むんま言やーだたんちよ。  
 にーち ゆーに しーくーらんでえっち言  
 ち 道ぬぶーりぐわ かいてい ちゃんち  
 よ。

うりうり 本当まあーしがよ、うんか  
 まりから うまぬヤかち行じゃんとうきや  
 やっ、「きじくじらぬ あんちゅやっ、竹  
 デクぬとんきゃかち 行きやむ。うべいる  
 むち。ゆう うべいるむなてい」。

ちぶさーち。「かしかし」ちえっ。ぬっち  
 あたんがえー。青酸カリあらんご。昔や  
 うり こーとうてい きじぬ いじてい  
 か。きじな ちきるむ あたんちよ。っわっ  
 きゃやーんきゃま うり こーとうてい  
 あじゃた ちきるたしがえっ。むーる名ま  
 い わっしてい うべいらんごなていあ  
 ね。鉱泉まあら、うにんがり 鉱泉ま流行  
 ていま うらだたんきい。

—みじいだれんど、あんば だれんど。  
 みじ。うがしさんとうきや、うり あまん  
 くまぐわな ちきたんしじあらや。かいつ  
 てい ぶら ふきゅっとうや。火傷しあね、  
 じーとう するがたんしじ あらや。「ふー  
 ん ちまらんぎい」ち。うにん チョウヨ  
 シにゃに にしたんしじあらや。チョウヨ  
 シにゃが、チブチブぐわな ばい菌ぬ う  
 むさんがにし。

いきゃなーげさんとう かりたしがえっ。  
 葉ち言ゆーむんや ねーりやっ。はーっ、  
 あわれなむんあていよ。

—房子ねーが いくちぬ とうきだれん  
 が。

いちち。

—ありや、何年っまーりだれんが、15年。

15年 っまーりなていや。栄ちゃんや、  
 昭和19年ぬ1月 っまーれい なていや。

—いぬなご あていか、昭和20年ぬ く  
 とうだれんじゃや。

20年べあたや。かいつて 火傷しめいてい。うりうりうり、うりに「いちゃん」ち泣かったとう。医者ち言ゅーむんやをうらり。

——チョウヨシにゃ。

チョウヨシにゃ。恵シギにゃが あーじゃ。チョウヨシにゃち言ゅんちゅぬをうたんせ。むんごしゃちゅ あたんせ。灸さーりやっ。

は一、なっ っわっきやま昔ちゅよ。うっしゅんちゅ むーる あていあむなたんとう。うがし、うんかチョウヨシにゃがうやんきや、くんでや、っわっきやエーロ(夫・栄良)にゃが うやほうんきや、いきやしがらし キョウーデなとうんあんべちよ。な一ま、宝ぬ貞彦たハロジち言ゅんせえっ。ぬんかにしハロジなとうむなてい。チョウヨシにゃが めー行じ にしたんとう、

「ふーう、くりや、やっ、うーむんし かいつたやっ、火傷しめいてい。くわーまるきり でんな つくり病しゅっきじゃちあん」ち言ゅったむ きぬに しゅーしがえっ。しか、にゃが、青酸カリあらんご。ぬっち あたんがいー(ホウサンあれらんぎいや)。ホウサンがら、ぬーがあら 水いぐすり あたんちよ。うりや、こーゆむあたしが。うり ちきていか いちゃん、いちゃん なーんぐわんきや、きじぐわぬ あんとんきやな ちきていか いちゃん ちぢからむん あたんちよ。うりが、普通ぬからだな ぎりぎりな点々ち、ワラシブぐわぬな一軸ぐわし ちきいてい点々ぐわどう さーしが うりが ちゅーあむなてい、うね。火傷し ぶらふちあね。ちよう うんと うげえへんべ ぶらふち。さんとーむーる、

「ほーう、ちまらんぎい」ち。うりしチョウヨシにゃに そーてい行じ。

(意識) 昭和15年生の子に突然、ブツブツ

が出た。集落のいろいろな人に見せ、相談した。竹細工をしていた人はものも言わなかった。別の人に見せた。後で竹細工などしている所ではかえって傷を元気づけると言われた。水薬をつけたら、かえって大きくなった。「かえって病を引き出してある」と言われた。娘は痛いとなくし困った。かなりたったらかれて治った。医者もいない、薬もない時代であわれなものだった。

注

ハロジは、奄美の社会を見るときキーワードになっていることを先学の奄美調査分析を紹介している(「文化人類学から見た奄美」桑原季雄教授奄美サテライト教室講義資料5頁2007年)。

## 12、おわりに

徳之島の民俗文化には記録に残らないことが多いように思う。